

1 仮定その2

<書き下し文・意味>

<句法解説>

- | | | |
|-----------------------|--|-------------------------------------|
| (1) たとひかれいはずとも | 縦ひ彼言はずとも、籍独り心に愧ぢざらん（たとえ彼等が私に不平を言わなくても、私・項羽はどうして恥ずかしく思わずにいられよう） | 縦は、仮定の句法。「たとひ〜とも」と読み、「たとえ〜としても」と訳す。 |
| (2) ふびんなりといへども | 回不敏なりと雖も、請ふ斯の語を事とせん（私・顔回は至らぬ者ではありますが、今のお言葉を自分の行うべきことにしたいと思います） | 雖は、仮定の句法。「〜といへども」と読み、「たとえ〜としても」と訳す。 |
| (3) いへども | 千万人と雖も、吾往かん（たとえ相手が千万人いたとしても、私は自分の信じる道を行くのだ） | 雖は、仮定の句法。「〜といへども」と読み、「たとえ〜としても」と訳す。 |
| (4) たとひわれゆかずとも | 縦ひ我往かずとも、子寧ぞ来たらざる（仮に私が行かなくても、あなたはどのように来ないのか） | 縦は、仮定の句法。「たとひ〜とも」と読み、「たとえ〜としても」と訳す。 |
| (5) あたらずといへども | 中たらずと雖も遠からず（当たっていないといっても、全般的な外れな訳ではない） | 雖は、仮定の句法。「〜といへども」と読み、「たとえ〜としても」と訳す。 |

2 限定

- | | | |
|---------------------|--|----------------------------------|
| (6) ただしのみ | 恒産無くして恒心有る者は、惟だ士のみ能くすと為す（一定の財産がなくても不変の道義心があるということは、優れた人物だけができることである） | 惟は、限定の句法。「ただ〜のみ」と読み、「ただ〜だけ」と訳す。 |
| (7) ただ | 惟だ乳下の孫有るのみ（ただ母のお乳にぶら下がる孫がいるだけである） | 惟は、限定の句法。「ただ〜のみ」と読み、「ただ〜だけ」と訳す。 |
| (8) ひとりしんのみ | 今独り臣のみ船有り（今私だけが船を持っております） | 独は、限定の句法。「ひとり〜のみ」と読み、「ただ〜だけ」と訳す。 |
| (9) ひとり | 独り項王の殺す所の漢軍数百人（項羽だけで殺した漢軍の兵は、数百人もいた） | 独は、限定の句法。「ひとり〜のみ」と読み、「ただ〜だけ」と訳す。 |
| (10) ひとりしんのみ | 独り秦のみ能く趙を苦しめん（ただ秦だけが趙を苦しめることができるだろう） | 独は、限定の句法。「ひとり〜のみ」と読み、「ただ〜だけ」と訳す。 |



【アプリ版のご紹介】古文・漢文

古文・漢文を学習中の中学生、高校生必見！定期試験とセンター試験に頻出の「古文単語」「古典文法」「漢文」を、完全に無料で学べるアプリが登場！！



【オマケの一題】

中学社会 地理・歴史・公民

15代将軍・徳川慶喜が、政権を朝廷に返上したことを何と言う？

(A) 大政奉還 (B) 廃藩置県 (C) 刀狩り (D) 建武の新政